

「土砂災害を体験して」

愛知県 新城市立作手小学校 4年 ^{ささの} 笹野 ほのか

「土がくずれたから、いつもの道では帰って来れんよ。ちがう道で帰っておいでん。」2年前の夏、2つとなりの集落に住んでいるおじいちゃんから、お母さんのけい帯に連らくがありました。

私たちの住んでいる新城市作手地区は山にかこまれていて、い動のほとんどが自動車です。おじいちゃんが通れないと言ったのは、県道作手保永ー海老線のことです。

私はこの日、新城市がいのスイミング教室から帰るとちゅうでした。たしかに前の夜、たくさんの雨がふりました。だけど、山がくずれたと言う意味がわかりませんでした。スイミングに行く時は、いつもの道をいつものように通って来たからです。

家に帰ってから、通れなくなった道路を見に行きました。電柱が3本たおれて、たくさんの土と木、大きな石が山から道路にくずれ落ちていました。こんな場面を見たのは、初めてでした。一体何かおきたのか、わかりませんでした。車だけでなく、人さえもその先には進めなくなっていました。

この日から、わたしたち家族の生活はいろいろと不便になりました。車やスクールバスは、昔の人が使っていた林道を通ることになりました。道はばがせまくて、お母さんは運転がこわいと言いました。私はバスに乗っている時も、今ここで山がくずれて来たら、どうなるのだろうと考えてこわくなりました。

それから、遠回りになるので、通きんや通学に時間がかかるようになりました。お母さんの帰りがさらにおそくなったので、ひとりでおるすばんする時間がふえてしまったのでとくに夜はすごさみしくなりました。

また、買い物も不便になりました。一度の買い物でたくさんの食べ物を買って、ハムスターやリスのようにためておかなければならなくなりました。

あれから2年。私は、今も不便な生活を続けています。最近、やっと時間制限はありますが自動車が通れるようになりました。

わたしは、少しでも早く道をなおしてほしかったのに、なかなか工事が進みませんでした。お母さんに聞いたら

「山がまだ動いているから、工事が進まないんだって。」と教えてくれました。

びっくりしたのは、山が動くという言葉でした。工事をする人たちは、山が動くという言葉をよく使います。山が動くなんで信じられませんが、山の地中では地下水が流れていて、弱い部分の土がくずれるそうです。私は土砂くずれを見た時、たくさんの水が地面から流れていたことを思い出しました。一度に多量の雨がふると、山が大きく動いて、私たちの生活にひ害をあたえるのだそうです。

それから私は、山を守る話も聞きました。山の木のえだを切って手入れをすれば、太陽の光が地面にとどいて、木の根っこがじょうぶになり、地面にしっかり根をはるそうです。そうすると、くずれにくい山になるそうです。

私は、山に囲まれた作手の自ぜんが大好きです。川には、ホタルが飛び、川遊びもできます。観光客もたくさん来るので作手の自ぜんは私のじまんです。でも、これまでは自ぜんがあって当たり前で、山などの自ぜんを人間が手入れすることなど、全く考えた事はありませんでした。

私は自分が土砂災害にあって、はじめて自ぜんのこわさを知りました。道路がこんなに大切なものだという事もわかりました。それから、大好きな自ぜんと仲良くするために、私たち人間が山の世話をすることが必要だということも知りました。土砂災害にあう人は、私のまわりでは、そんなに多くはいません。だからわたしは、多くの人に私の体験を知ってもらって、私たちの生活と自ぜんを守ることにについて考えてもらいたいと思いました。